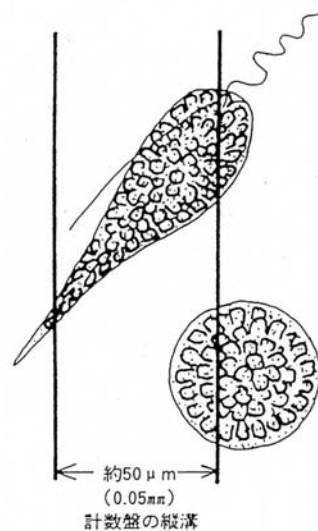


1 シャットネラ アンティカ

【最重要種】

Chattonella antiqua (ラフィド藻)



1. 典型的な細胞
2. 計数盤の縦溝との写真
3. 球形化した細胞

スケールバー 20 μm (0.02mm)

特記事項

最も注意を必要とする種。赤潮状態になるとハマチが全滅する。100cells/mLを越すとハマチの斃死が起こる恐れがある。10cells/mL以上になると餌止めが望まれる。

形態および泳ぎの特徴

体前部が広く後端が伸び尖っている。体は偏平。ゆるやかに回転して泳ぐ。体長 50~140 μm。黄褐色。環境の急変時には球形化する。

類似種との区分

シャットネラ マリーナ：アンティカは後端が伸び尖ること、偏平なこと、より大型であることで区分する。

球形シャットネラ：アンティカは球形化しても、楕円形の色素胞が明瞭である。一方、球形シャットネラは小さな粒状のもので細胞が満たされている。

出現期、水温、水域

7~9月上旬、18~29°C (主に 22~27°C)、県下全域 (主に播磨灘)

赤潮、被害事例

赤潮：昭和 47、52、53、54、57、61、62、平成 5、11、14、15 年

被害：昭和 45 (粟島)、47、52、53、57、61、62、平成 15 年 (播磨灘)